

## 記者発表資料

(県 政)

### 第56回滋賀県政世論調査単純集計結果<速報>について

本年7月に実施した県政世論調査の単純集計結果を取りまとめましたので、速報としてお知らせします。今後、10月中旬にクロス集計も含む報告書を公表し、県公式ホームページに掲載する予定です。なお、今回の数値は「速報値」であり、後日(10月予定)報告書により公表するものが確定値となります。

※添付資料について四捨五入の関係上、各選択肢の百分率(%)の合計が100%にならない場合があります。

#### 1. 調査のあらまし

調査対象： 県内在住の満18歳以上の個人

標本数： 3,000人

調査時期： 令和5年7月10日(月)～7月26日(水)

調査方法： 郵送法・オンライン調査法の併用

調査項目： (1)県政全体に関する満足度について(企画調整課)

(2)県の広報・広聴活動について(広報課)

(3)県北部地域の振興について(新駅問題対策・特定プロジェクト推進室)

(4)子どもの豊かな心を育む取組(読書支援)について(図書館)

(5)県政に関する意見(広報課)

#### 2. 調査票回収結果

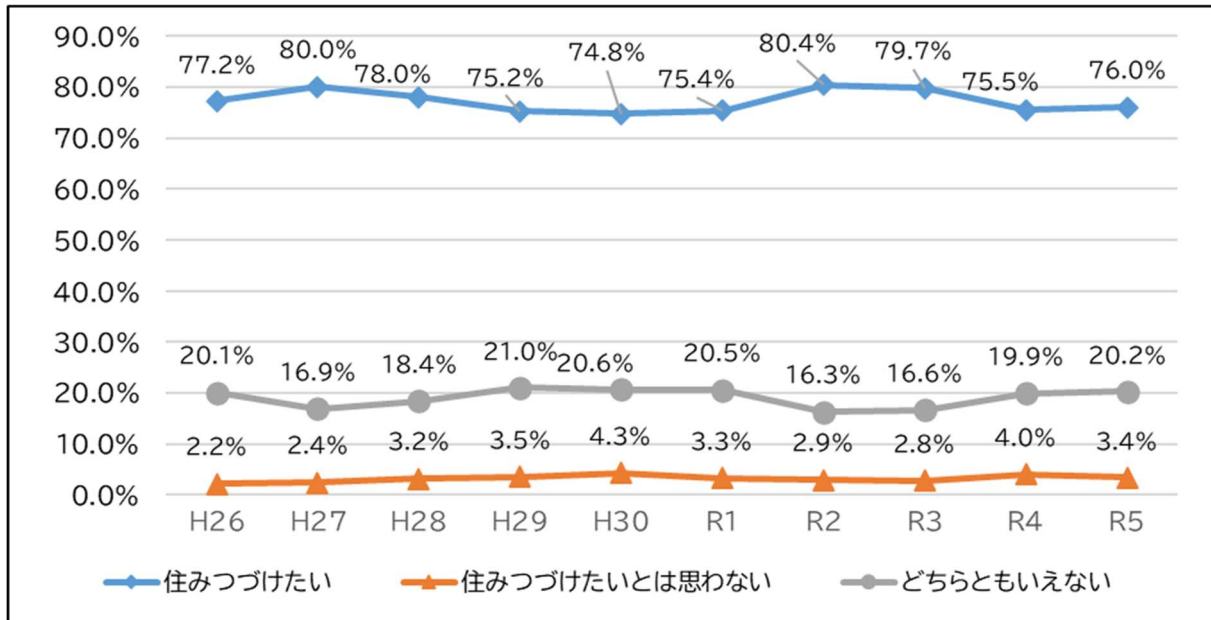
- 有効回収数(有効回収率) 1,880人(62.7%)【R4 67.8% R3 50.6%】
- 有効回収数(郵送+オンライン)に占めるネット回答の割合 40.9%【R4 39.1% R3 30.4%】
- 回答者の年代別  
18～19歳：5.9%      20～34歳：17.7%  
35～49歳：22.8%      50～64歳：25.8%  
65～74歳：19.3%      75歳以上：8.0%  
不明・無回答：0.4%

### 3. 主な集計結果

#### ■ 県政全体に関する満足度について

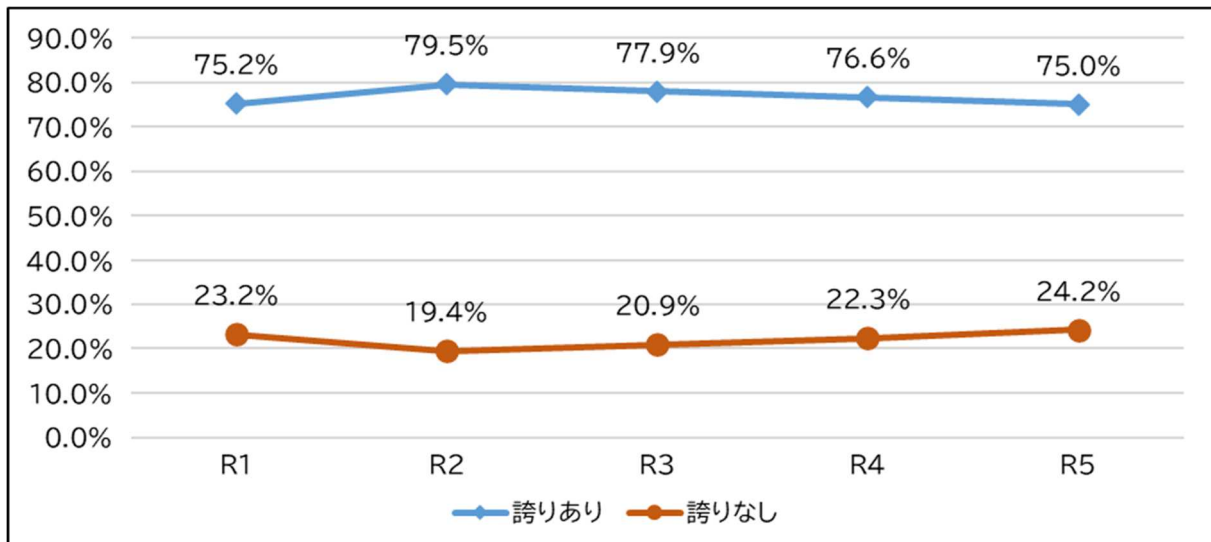
##### ● 定住意向

「住みつづけたい」と答えた人の割合 76.0% 【 R4 75.5% 0.5ポイント増 】



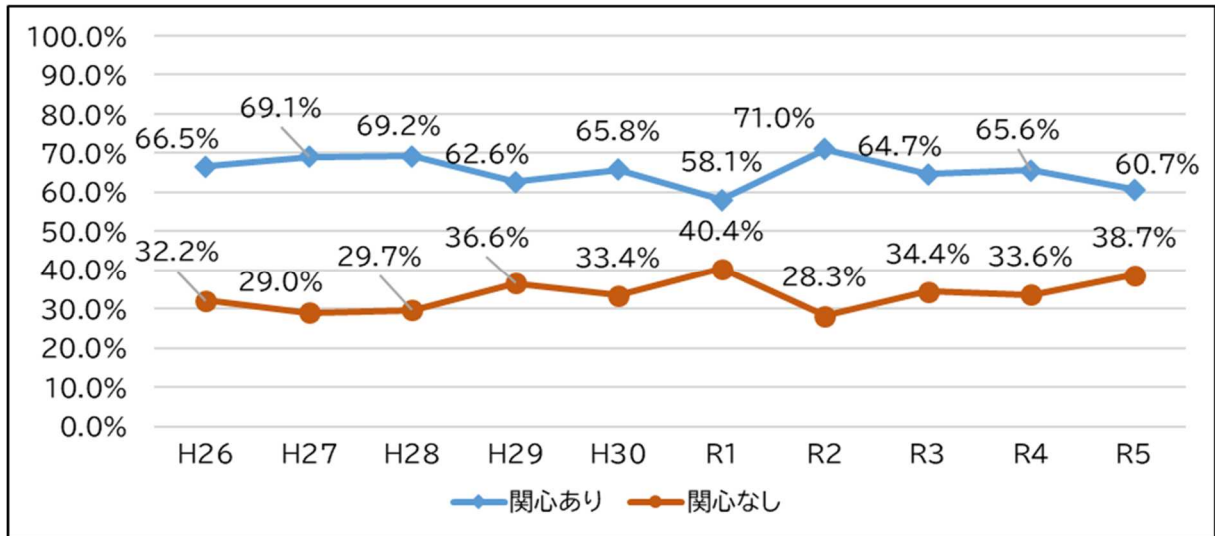
##### ● 滋賀県に対する誇りの有無

「誇りあり」（「持っている」と「どちらかというを持っている」の合計比率）と答えた人の割合 75.0% 【 R4 76.7% 1.6ポイント減 】



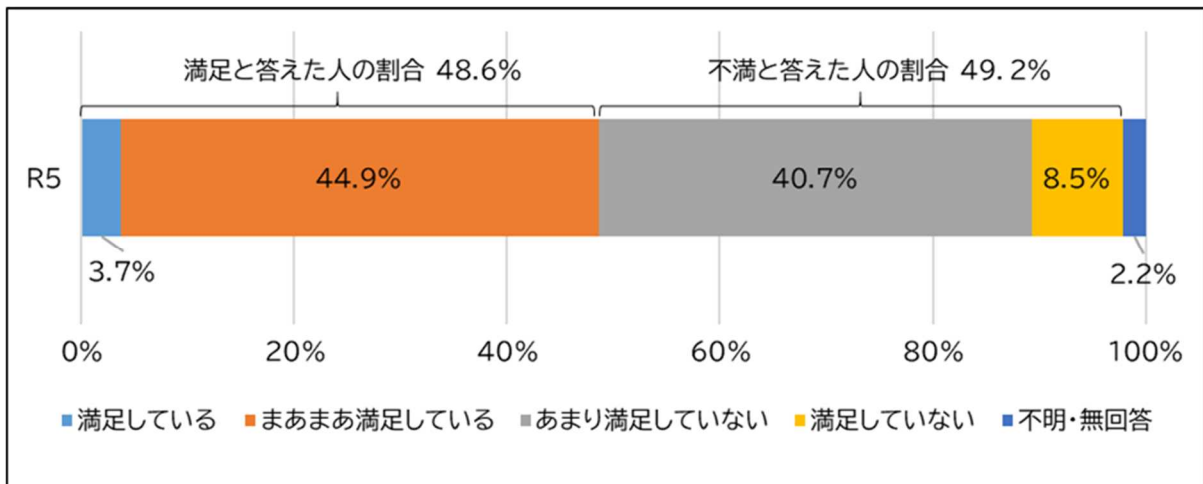
- 県政への関心度

「関心あり」（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）と  
 答えた人の割合 60.7% 【R4 65.6% 4.9ポイント減】



- 県が行う情報発信の満足度<R5年度からの調査項目>

「満足」（「満足している」と「まあまあ満足している」の合計）と  
 答えた人の割合 48.6%



- 県民生活への満足度

各項目についての満足度を「感じる」、「どちらかといえば感じる」、「どちらかといえば感じない」、「感じない」、「わからない」の5段階で評価

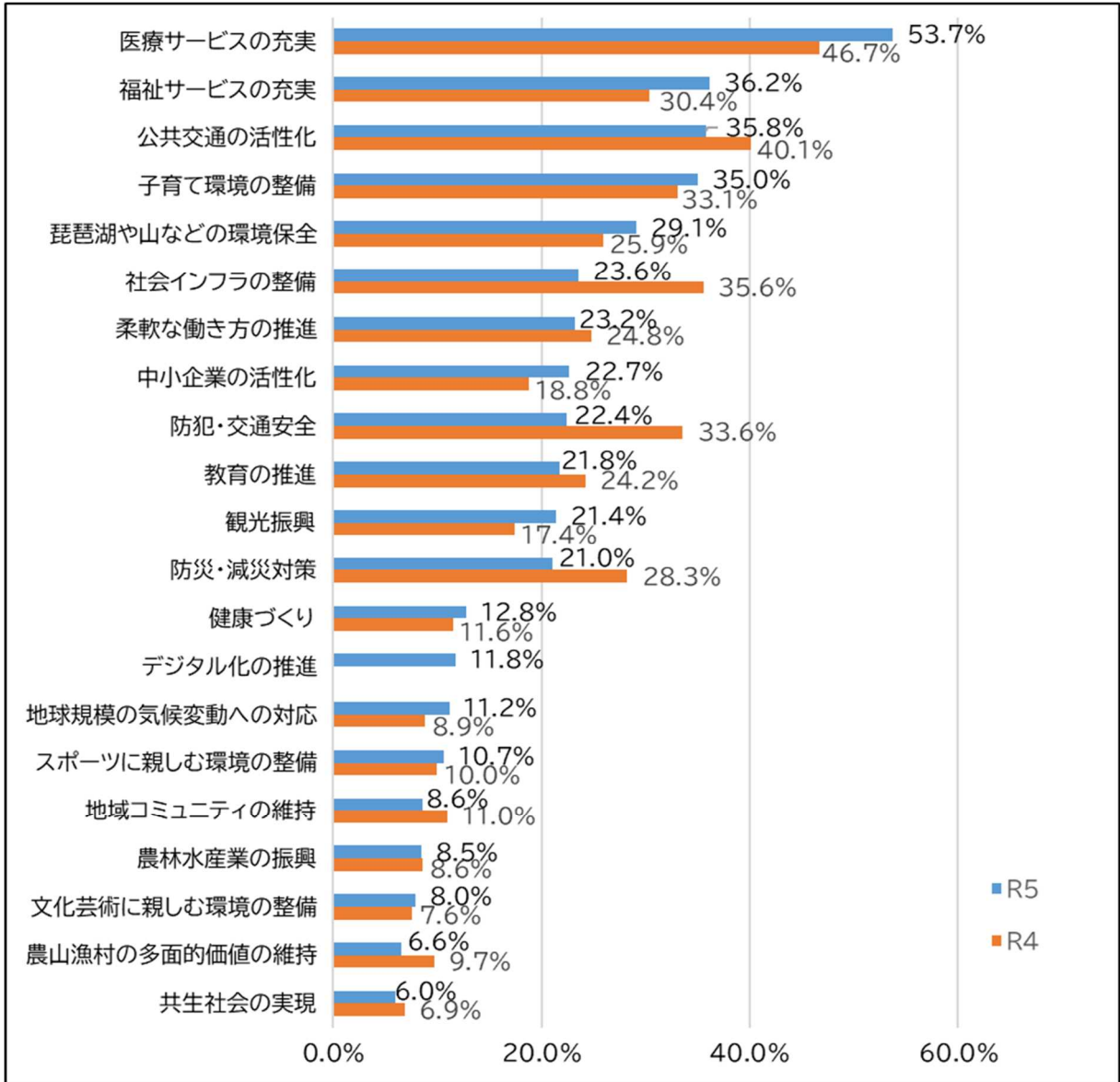
満足度の高い分野（「感じる」と「どちらかといえば感じる」を答えた比率）

順位	項目	比率	R4比率(順位)
1	健康的な日常生活を送れていると感じますか。 ※満足度 5年連続1位	77.5%	79.7%(1)
2	琵琶湖や山といった身近な自然や環境が守られていると感じますか。	66.8%	62.4%(5)
3	犯罪や事故が少なく、安全・安心な生活が送れていると感じますか。	65.7%	72.6%(2)
4	必要な医療サービスを利用できる環境が整っていると感じますか。	65.1%	64.7%(4)
5	農山漁村が持つ美しい風景や生活文化が守られていると感じますか。	55.4%	66.2%(3)

不満度の高い分野（「感じない」と「どちらかといえば感じない」を答えた比率）

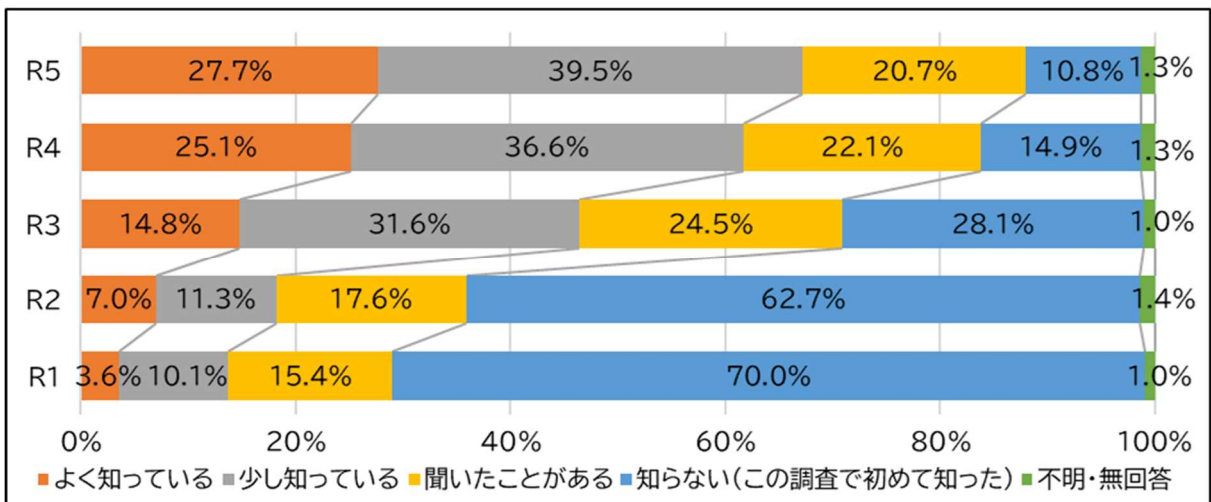
順位	項目	比率	R4比率(順位)
1	鉄道やバスなどの公共交通が整っていると感じますか。※不満度 13年連続1位	66.4%	64.7%(1)
2	地球温暖化などへの対応が進んでいると感じますか。	59.4%	63.1%(2)
3	出産、子育て、介護などとも両立した柔軟な働き方ができる環境が整っていると感じますか。	52.7%	53.1%(6)
4	滋賀県の魅力が発信されていると感じますか。	51.8%	57.7%(3)
5	道路などの社会インフラが整っていると感じますか。	48.0%	41.2%(12)

● 力を入れてほしい県の施策



● SDGsの認知度

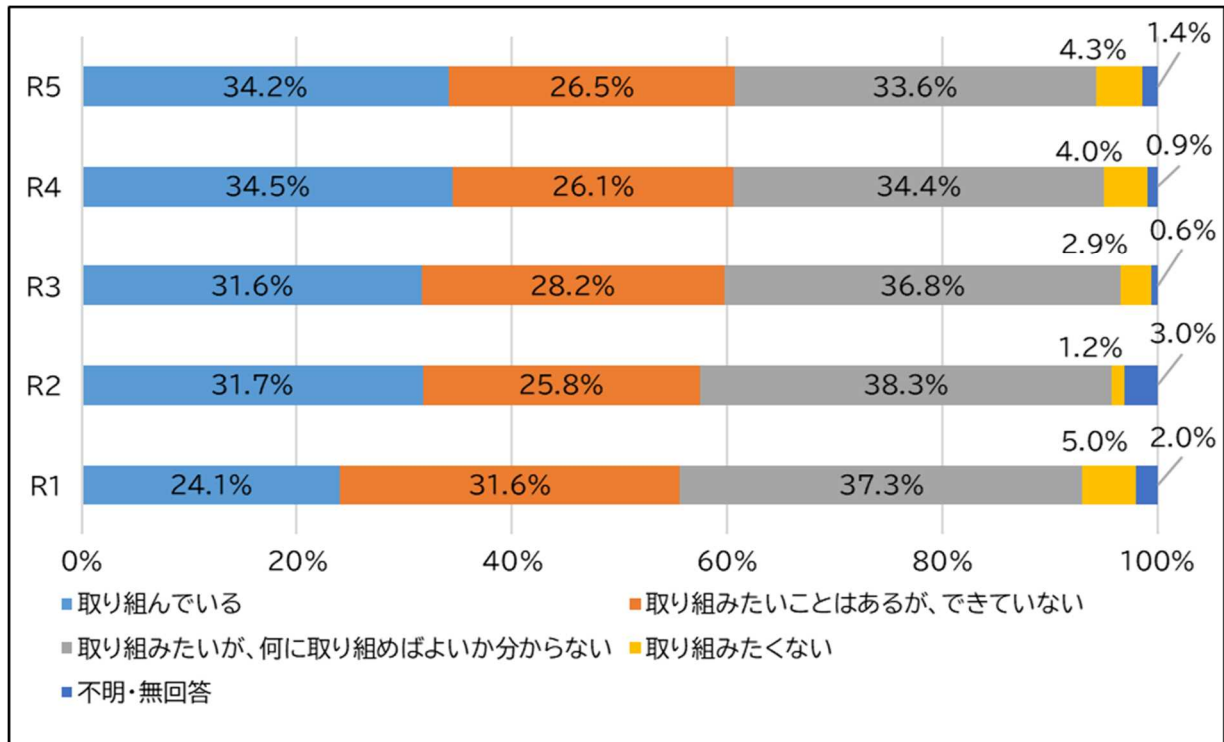
「知っている」(「よく知っている」、「少し知っている」、「聞いたことがある」の合計)と答えた人の割合 87.9% 【 R4 83.8% 4.1ポイント増 】



● SDGsを意識した取組

「取り組んでいる」と答えた人の割合 34.2%【 R4 34.5% 0.3ポイント減】

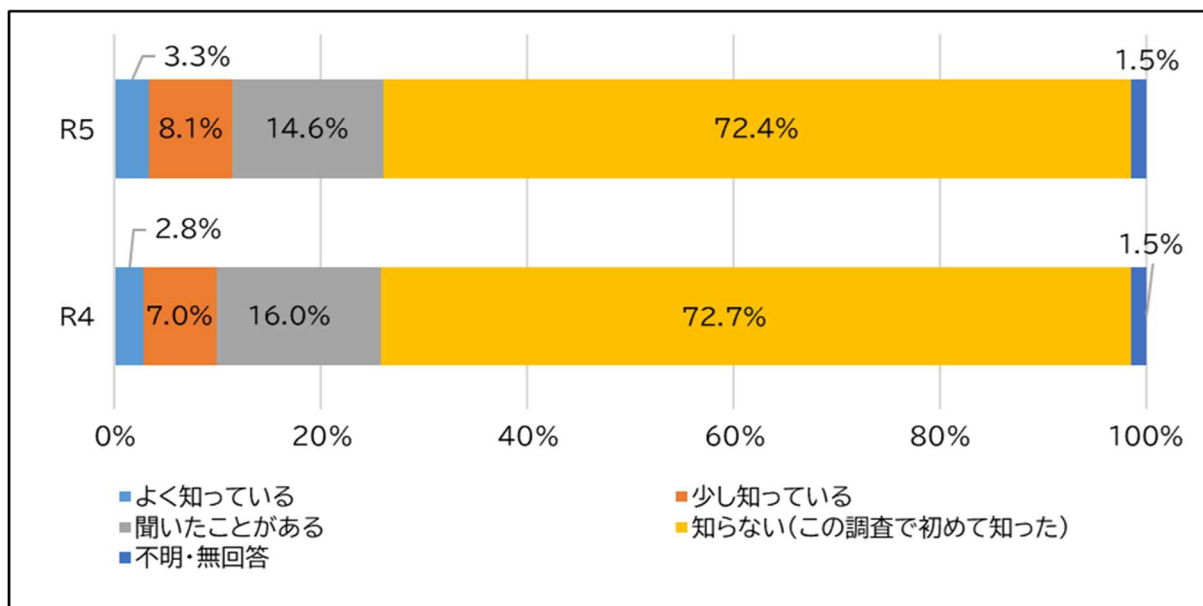
※ 認知度で「よく知っている」、「少し知っている」と答えた人にも質問



● マザーレイクゴールズ(MLGs)の認知度

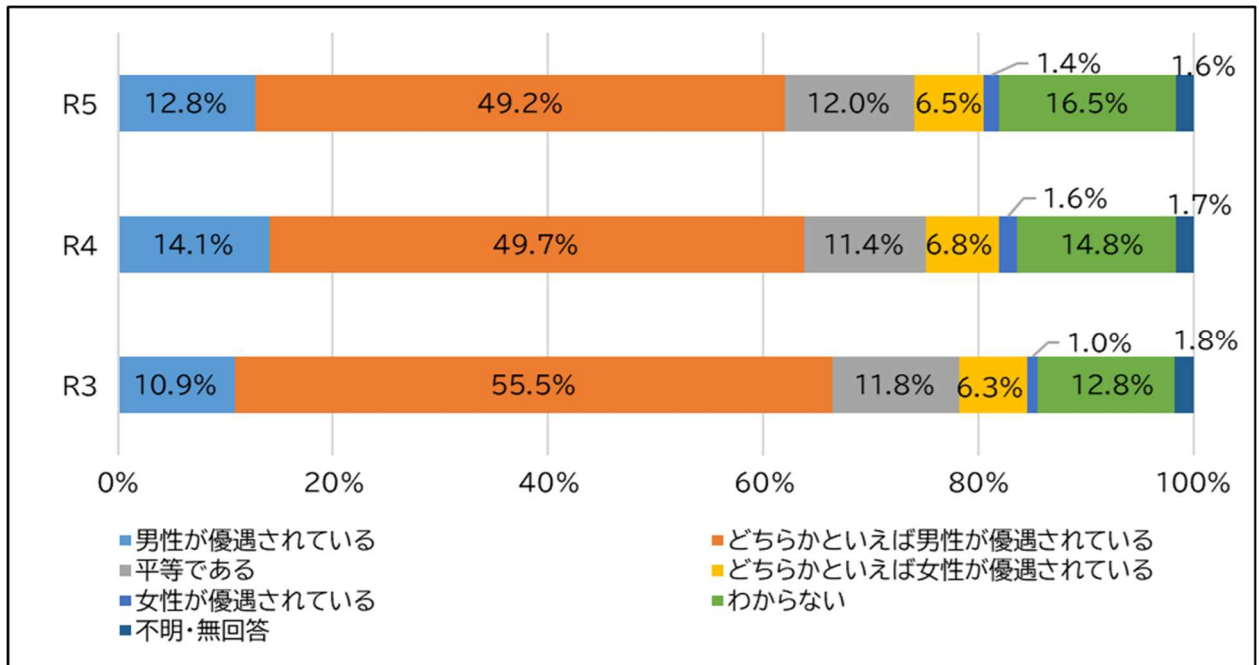
「知っている」(「よく知っている」、「少し知っている」、「聞いたことがある」の合計)

と答えた人の割合 26.1%【 R4 25.8% 0.3ポイント増】

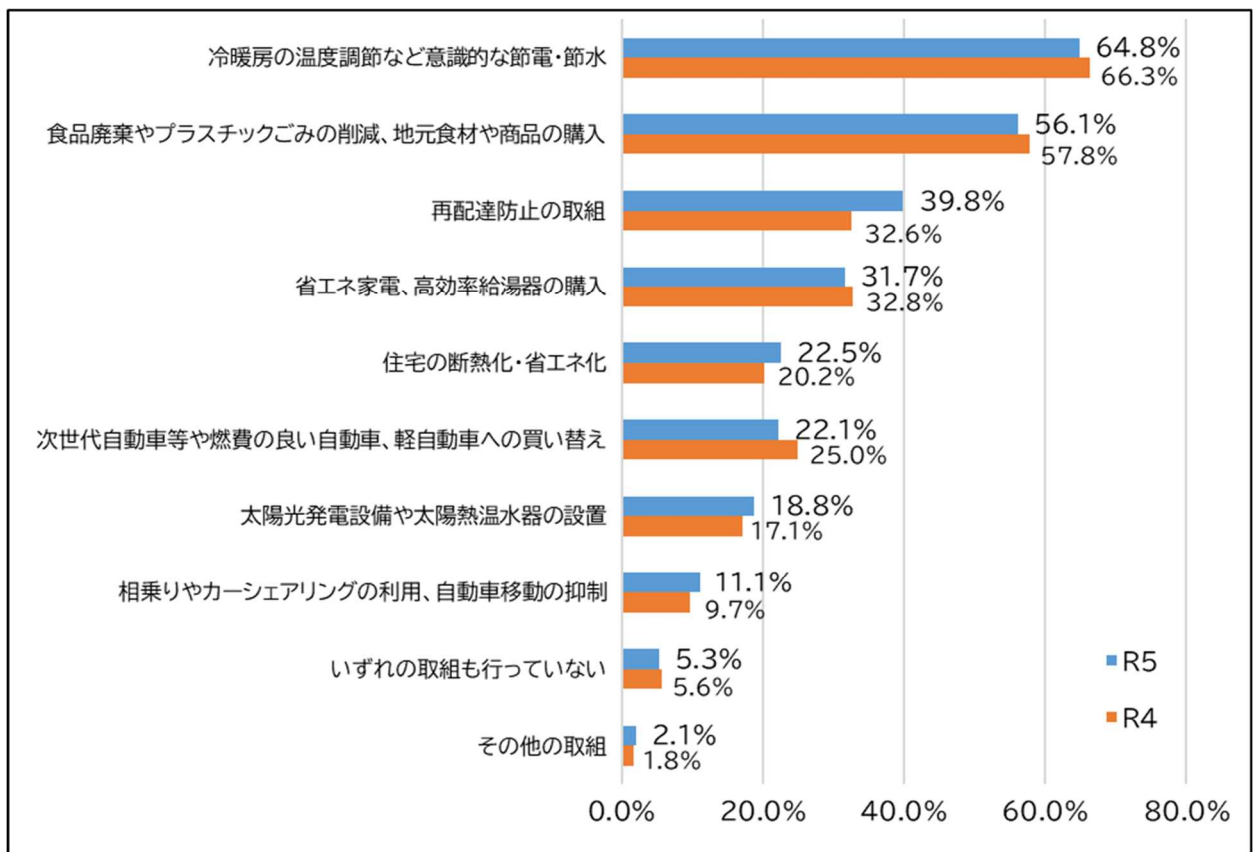


● 男女の地位の平等感

社会全体の男女の地位の平等感について、「男性が優遇されている」「男性が優遇されている」と「どちらかというと男性が優遇されている」の合計)と答えた人の割合 62.0%【 R4 63.8% 1.8ポイント減】 平等であると答えた人の割合 12.0%【 R4 11.4% 0.6ポイント増】

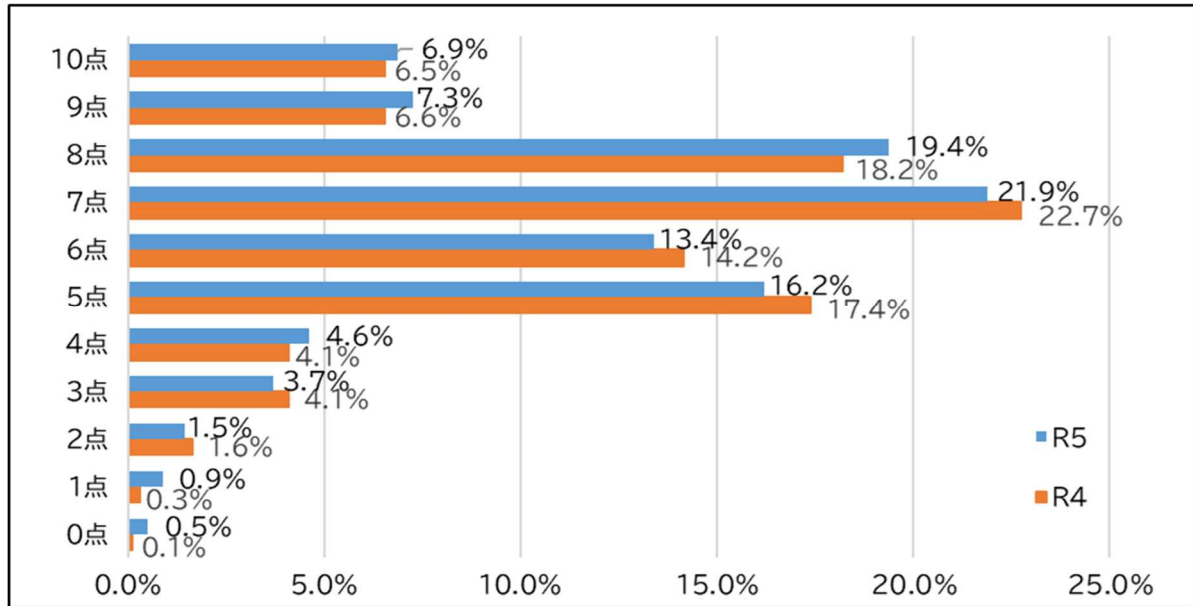


● CO<sub>2</sub>ネットゼロにつながる取り組み



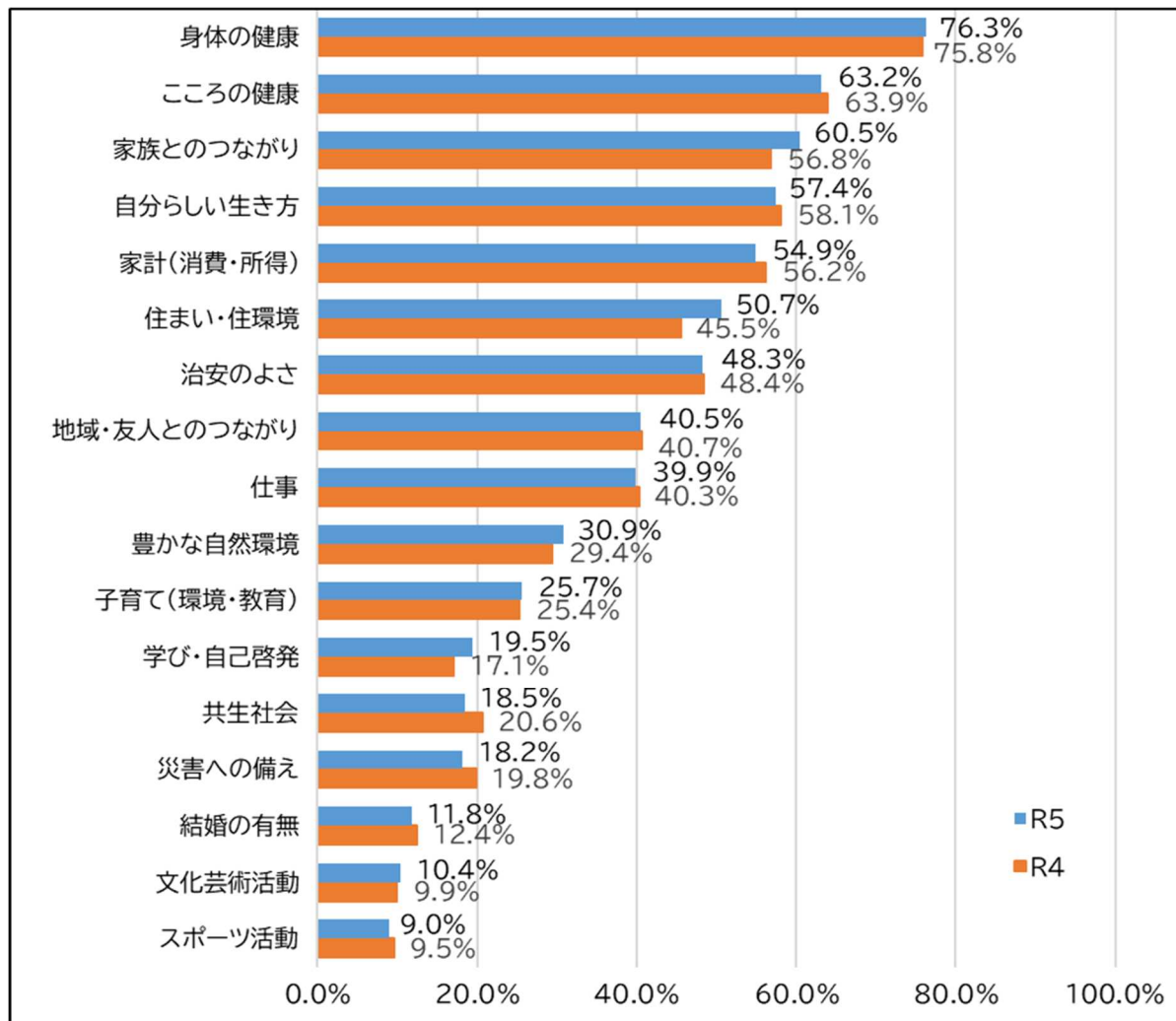
- 幸福度

自分が感じている幸せの度合いについて、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると何点だと思うか 平均:6.63点【R4 6.61点 0.02ポイント増】



- 幸せを感じるうえで大切なこと

上問で回答したような幸せを感じるにあたり、大切だと感じることについて





# 第56回 滋賀県政世論調査

## 単純集計結果

### 単純集計のみかた

- (1) 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（付問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（％）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（％）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- (2) 百分率（％）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（％）の合計が100.0%にならない場合がある。また、2つの選択肢を集約した割合（「満足」と「どちらかといえば満足」を合計した『満足度』など）は、該当選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- (3) 図中の「N」は集計対象者数（あるいは、分類別の該当対象者数）を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。また、図中の「n」は当該選択肢の規正回答者数を示す。
- (4) 回答者数は、各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重し規正した。これは標本数の配分にあたり、湖西地域は他の6地域（大津、湖南、甲賀、東近江、湖東、湖北）の2倍のウェイトを加重して抽出したためである。

令和5年度

滋 賀 県

# 目 次

---

I. 調査実施概要.....	1
II. 単純集計表.....	8

---

# I. 調査実施概要

---

## 1. 調査目的

滋賀県基本構想に即した「満足度」「要望度」や県政の当面する主要課題等をテーマに県民の意識・意向を調査し、今後の施策や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

## 2. 調査期間

令和5年7月10日（月）～令和5年7月26日（水）

## 3. 調査設計

調査地域	滋賀県内全域
調査対象	県内在住の満18歳以上の個人
標本数	3,000人
抽出台帳	選挙人名簿
抽出方法	層化二段無作為抽出法・地域別（7地域）
調査票	日本語

## 4. 調査方法

郵送法・オンライン調査法の併用、無記名方式、督促1回

## 5. 調査機関

日本情報通信株式会社

## 6. 調査項目

- (1) 県政全体について
- (2) 県の広報・広聴活動について
- (3) 県北部地域（長浜市・高島市・米原市）の振興について
- (4) 子どもの豊かな心を育む取組（読書支援）について
- (5) 県政に関する意見

## 7. 標本構成

### (1) 層化

県内の市町を7地域に分類した。

大津	大津市
湖南	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲賀	甲賀市、湖南市
東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
湖東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖北	長浜市、米原市
湖西	高島市

### (2) 標本数の配分

各地域規模の層における18歳以上の人口を基に、ウェイト補正（「(4)調査結果の集計表示方法」を参照）を行って3,000人の標本数を比例配分した。

	推定母集団（人）	標本数（人）	地点数 （地点）
大津	285,311	718	48
湖南	276,854	697	46
甲賀	115,282	290	19
東近江	184,526	464	31
湖東	125,435	315	24
湖北	125,481	315	21
湖西	39,863	201	14
合計	1,152,752	3,000	203

注1) 抽出地点は、令和2年度国勢調査時に設定された調査区を使用した。

注2) 推定母集団は、令和5年3月1日現在の選挙人名簿定時登録者数から算出した。

### (3) 調査票の回収結果

有効回答数は1,880件で、有効回収率は全体で62.7%となった。

なお、郵送とインターネットの両方で回答があったものについては、インターネット回答のみを有効とした。

	標本数 (人)	有効回収数 (件)		有効回収 率 (%)	※参考 ネット回答 割合
			うち ネット回答		
大津	718	442	188	61.6	42.5%
湖南	697	472	198	67.7	41.9%
甲賀	290	162	68	55.9	42.0%
東近江	464	286	120	61.6	42.0%
湖東	315	188	76	59.7	40.4%
湖北	315	199	72	63.2	36.2%
湖西	201	114	47	56.7	41.2%
不明・無回答		17	0	—	0.0%
合計	3,000	1,880	769	62.7	40.9%

### (4) 調査結果の集計表示方法

各地域とも統計的な信頼度が確保できるように、以下のとおりの標本数と抽出ウェイトとしている。

地域別の抽出数が異なるため、有効回収数に集計ウェイトを加重し補正した。調査結果は、この「規正標本数」を基数として集計を行った。

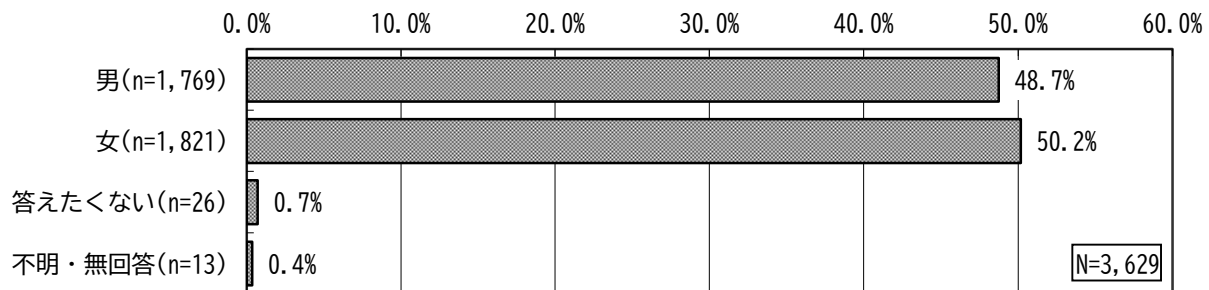
	抽出 ウェイト	標本数 (人)	有効回収数 (件)	集計 ウェイト	規正標本数 (件)
大津	1 / 2	718	442	2	884
湖南	1 / 2	697	472	2	944
甲賀	1 / 2	290	162	2	324
東近江	1 / 2	464	286	2	572
湖東	1 / 2	315	188	2	376
湖北	1 / 2	315	199	2	398
湖西	1	201	114	1	114
不明・無回答			17	—	17
合計	—	3,000	1,880	—	3,629

## 8. 回答者の属性

ここでは回答者の属性について、性別、年代別、居住地域別、職業別、勤務地（通学地）別、居住歴別にみた結果を示す。

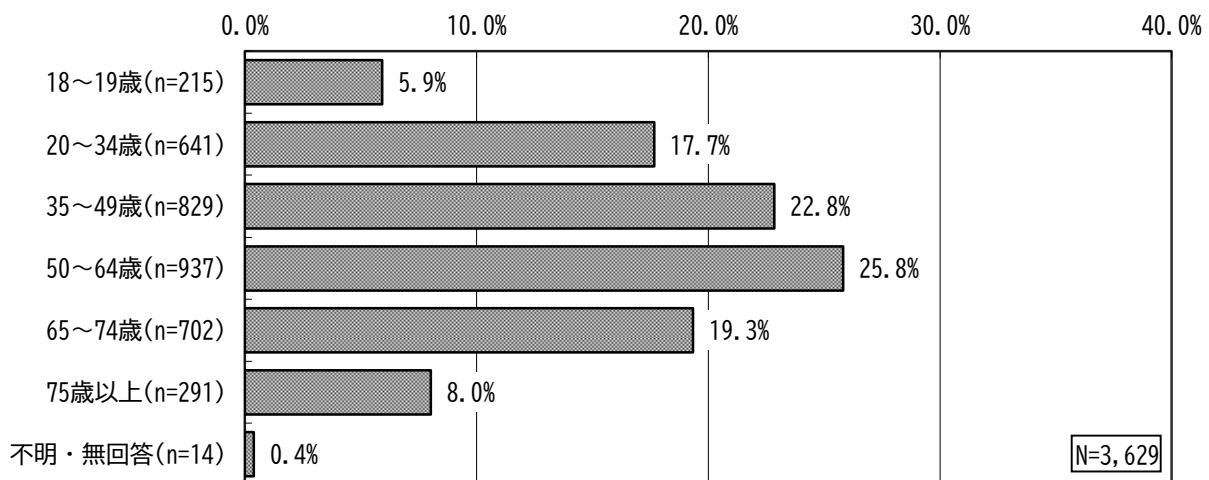
### （1）性別

性別は、「女性」が50.2%、「男性」が48.7%となっている。



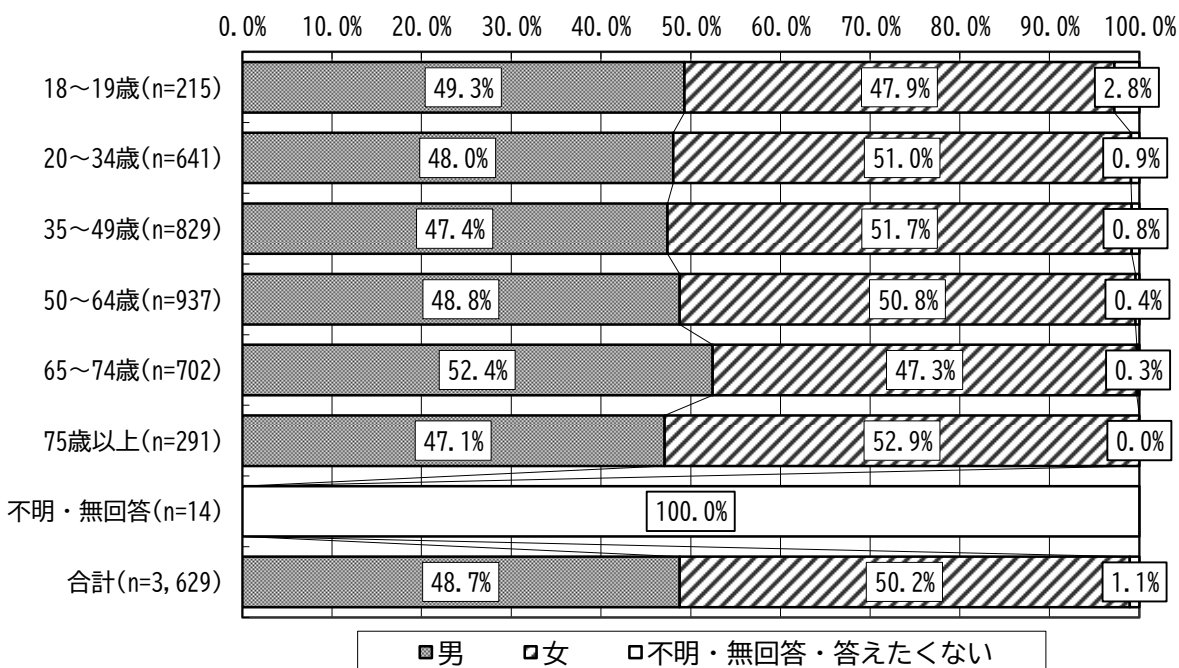
### （2）年代別

年代は、「50～64歳」が25.8%で最も多く、以下、「35～49歳」が22.8%、「65～74歳」が19.3%、「20～34歳」が17.7%と続いている。



### (3) 性・年代別

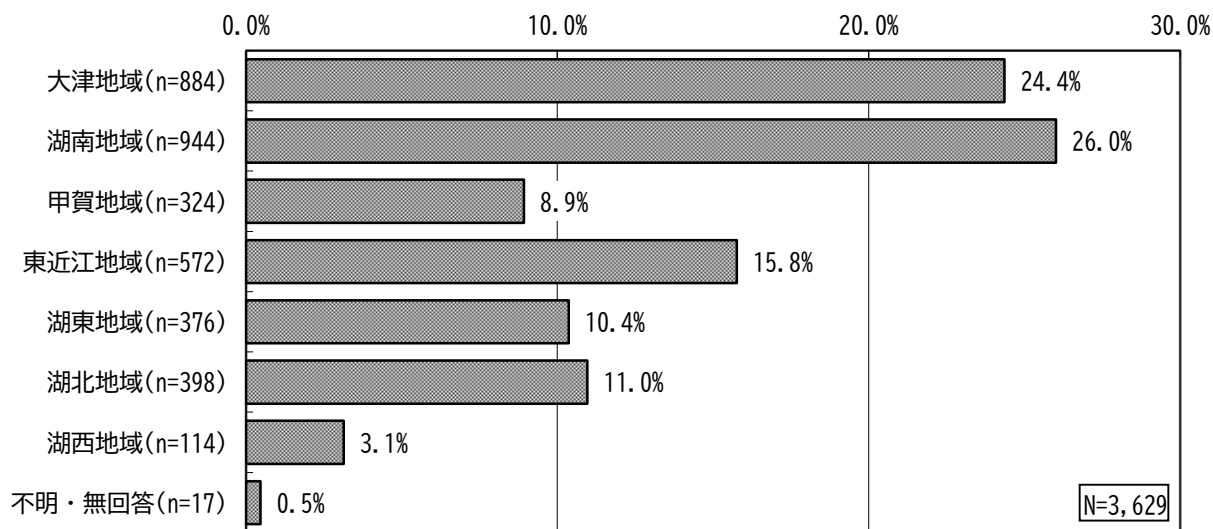
性・年代別の構成をみると、女性では20～34歳、35～49歳、50歳～64歳、75歳以上で50%以上を占め、男性の比率を上回っている。男性では18～19歳と65歳～74歳で女性の比率を上回っている。



	規正標本数 (件)	男性 (%)	女性 (%)	不明・無回答・ 答えたくない (%)
18～19歳	215	49.3	47.9	2.8
20～34歳	641	48.0	51.0	0.9
35～49歳	829	47.4	51.7	0.8
50～64歳	937	48.8	50.8	0.4
65～74歳	702	52.4	47.3	0.3
75歳以上	291	47.1	52.9	0.0
不明・無回答	14	0.0	0.0	100.0
合計	3,629	48.7	50.2	1.1

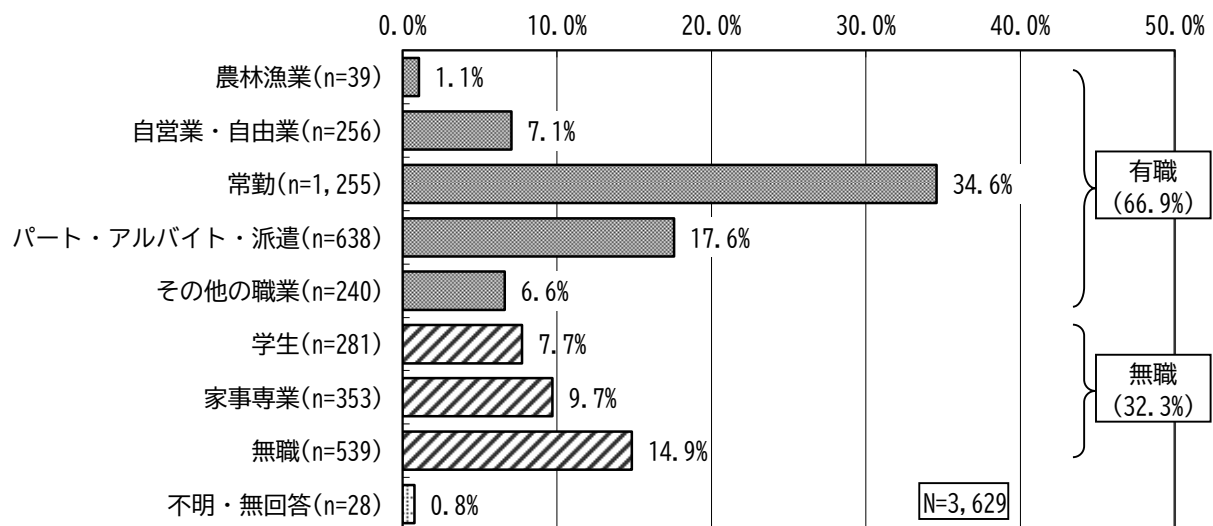
#### (4) 居住地域別

居住地域は「湖南地域」が26.0%と最も多く、以下、「大津地域」が24.4%、「東近江地域」が15.8%と続いている。



#### (5) 職業別

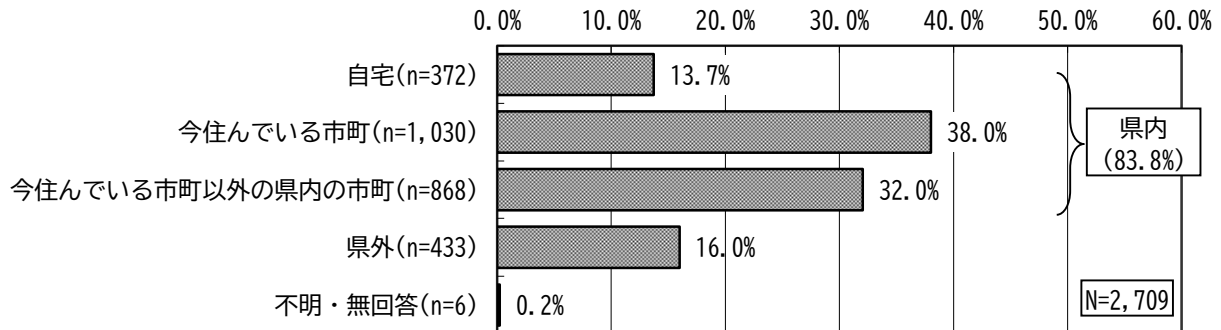
職業は、有職が66.9%となっており、そのうち「常勤」が34.6%で最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣」が17.6%となっている。これに対して無職は32.3%となっている。





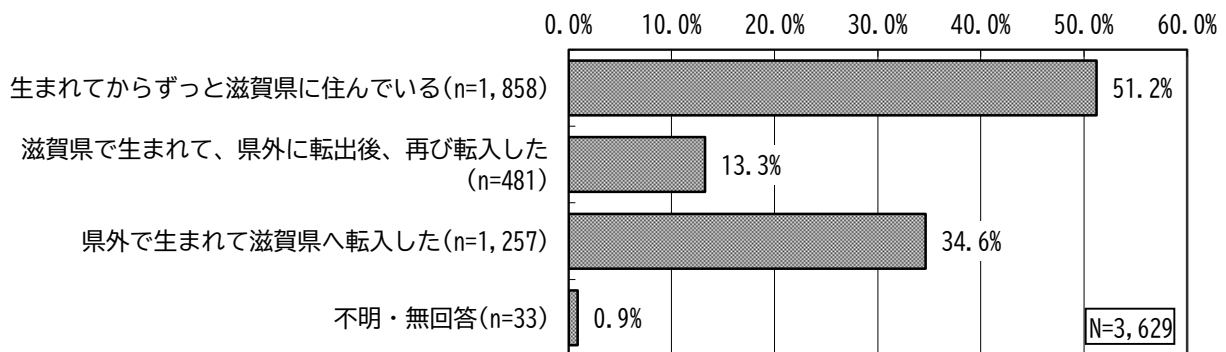
(付問1) 勤務地(通学地) 別

「農林漁業」「自営業・自由業」「常勤」「パート・アルバイト・派遣」「その他の職業」「学生」と回答した人に対して、勤務地(通学地)をたずねたところ、「今住んでいる市町」が38.0%で最も多く、次いで「今住んでいる市町以外の県内の市町」が32.0%となっている。



(6) 居住歴別

居住歴は、「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」が51.2%で最も多く、次いで「県外で生まれて滋賀県へ転入した」が34.6%となっている。



(付問1) 転入後の居住年数

「滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した」と「県外で生まれて滋賀県へ転入した」人に対して、転入後の居住年数をたずねたところ、「10年以上」が78.5%で最も多くなっている。

